



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT 2021年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2021年度

ANNUAL REPORT 2021年度

INDEX

目次

はじめに	
一橋大学イノベーション研究センターについて	i
I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) ブラウンバッグランチセミナー	03
3) 国際シンポジウム等	04
II. 研究員	07
1) 専任研究員	08
2) 兼任研究員	24
III. 教育活動	25
1) 講義	26
2) イノベーションマネジメント・政策プログラム	31
IV. 研究成果および刊行物	33
1) 一橋ビジネスレビュー	34
2) ワーキングペーパー	39

一橋大学イノベーション研究センターについて

一橋大学イノベーション研究センター（IIR）は、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

このようにIIRは、イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、発明が生まれ、それが産業発展へと実を結ぶまでの長いイノベーションの生成プロセスに対する私たちの理解はいまだ不十分な状況にあります。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。IIRが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

IIRの研究領域には、技術、組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明する「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者個人の特徴を解明する「革新者研究」、企業、大学、個人などの主体間のつながり方がイノベーションに与える影響を解明する「ネットワーク研究」、イノベーションの背後にある歴史的コンテキストを理解し、その発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などがイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる「知識経営研究」、そして、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」があります。

IIRでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11 月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として 発足した
1945年	5 月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5 月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6 月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4 月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4 月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育 研究施設に改組されて発足した
2000年	9 月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊
2012年	4 月	商学研究科の附属研究施設となった

I. 研究活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2021年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回程度のペースで行っている。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/category/forum-list/>

国内の研究者にとどまらず、海外の研究者の研究発表を積極的に主催することにより、国際的な研究交流を活発に行い、研究水準のさらなる向上に努めている。

9月1日 Avimanyu (Avi) Datta
“Strategic Renewal of Hollywood Movies by TMT as Agents of Change: The Impact of Change in TMT and Narrative Transformation on Franchise Performance”
(Professor, Strategy and Entrepreneurship and George R & Martha Means Center for Entrepreneurial Studies, Illinois State University)

2. ブラウンバッグランチセミナー——2021年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究フォーラムに加え、ブラウンバッグランチセミナーを不定期に開催している。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/category/forum-list/>

発表者については学内、学外、院生、教員を問わず、テーマはイノベーションに限定せずに、比較的アールリーステージの研究の発表の場を提供し、活発な交流を行っている。

6月23日	高田直樹 「公的支援プロジェクトによる国際的スピルオーバー」 (中央大学商学部 助教)
7月7日	数原クリスティーナ “Metaphorical Translations – A Process Study of a Strategic Initiative at Novo Nordisk in Japan” (Ph.D. Fellow, Copenhagen Business School / Teaching Associate Professor, University of Copenhagen)
7月21日	Marc Chataigner “Speculating Good Companies. A Discourse Analysis of the Role of Peer-to-peer Hospitality Micro-entrepreneurs” (Graduate School of Economics, Kyoto University)
10月27日	山田玲良／大山睦 『イノベーターのジレンマ』のゲーム理論的解明について (札幌大学 教授／一橋大学イノベーション研究センター 准教授)

3. 国際シンポジウム等

■ 「IIR Summer School 2021」

Venue: Zoom Online

Date: August 23-24, 2021

Organized by: IIR, Hitotsubashi University

August 23

Language: Japanese

Opening:

13:30-13:40: Yaichi AOSHIMA

Session 1: 13:40-15:10 (Chair: Tohru YOSHIOKA-KOBAYASHI)

13:40-14:10: 永里 賢治

「化学業界における制度的企業家の役割」

14:10-14:40: 舟津 昌平

「宗教と学術とビジネス—大学起業における宗教性」

14:40-15:10: 菊地 雄太

“Impact of University Reform on Research Performance Aggregated and Disaggregated across Research Fields: A Case Study of the Partial Privatization of Japanese National Universities”

Session 2: 15:20-16:20 (Chair: Hideto KOIZUMI)

15:20-15:50: 池内 健太

「科学研究活動の生産性に対する政策効果の分析：SciREX 共進化実現プロジェクトの研究成果」

15:50-16:20: 永山 晋

「職場の地理的柔軟性とジョブパフォーマンス：創造性、エンゲージメント、ウェルビーイング」

Session 3: 16:30-17:30 (Chair: Ryo TANIGUCHI)

16:30-17:00: 堀尾 柁人

「起業家のストレスの取扱方法 —事業転換を繰り返したシード期の複数事例より—」

17:00-17:30: 伊藤 智明

「起業のパートナーシップの発達：省察の履歴を追跡するための二人称的アプローチによる濃密な記述」

August 24

Language: English

Session4: 13:20-14:50 (Chair: Ivar PADRÓN-HERNÁNDEZ))

13:20-13:50: Geer HE

“Advanced Market Firms’ Turnaround under Emerging Market Ownership:
A Conceptual Study and an Illustrative Case”

13:50-14:20: Genjiro KOSAKA

“Does Vertical Keiretsu Effectively Respond to Disasters? Evidence from
the Japanese Automobile Industry”

14:20-14:50: Naoto NADAYAMA

“Subsidiary Managers’ Reaction to Headquarters’ Decision Making of
Divestment”

Session 5: 15:00-16:15 (Chair: Byeongwoo KANG)

Guest Speaker

15:00-16:15: Alex COAD

“Capabilities and Innovation”

Session 6: 16:25-17:25 (Chair: Kyle HIGHAM)

16:25-16:55: Takahiro INADA

“Applying Blockchain Technology to Peer-to-Peer Transaction Platforms:
A Longitudinal Case Study of a Startup”

16:55-17:25: Ramesh KRISHNAN

“Cybershaming: Institutional Logics and Institutional Outcomes in the Digital
Age”

Closing:

17:25-17:30: Masaru KARUBE

II. 研究員

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 専任研究員——2021年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2018年～ 一橋大学イノベーション研究センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

青島矢一（著），榊原清則（監修）『経営学入門』東洋経済新聞社，2022年3月，360頁

1.2. 論文，本の1章

延岡健太郎・青島矢一「ビジネスケース：麒麟ビール クラフトビールのプラットフォーム『タップ・マルシェ』」『一橋ビジネスレビュー』69巻2号，2021年9月，142-159頁

小泉秀人・門脇諒・寺本有輝・原泰史・青島矢一・江藤学「外部資金の増加は大学の論文生産性を下げるのか：国立大学の部局レベルのデータからのエビデンス」『一橋ビジネスレビュー』69巻2号，2021年9月，76-91頁

岡本知久・青島矢一「コーポレート・ベンチャーキャピタルの戦略的活用：日米欧主要CVCの分析」『一橋ビジネスレビュー』69巻3号，2021年12月，88-103頁

板橋洋平・北川実茶・笹森奎穂・志賀俊希・青島矢一「ビジネスケース：スーパーホテル 持たざる経営を支える『自律型感動人間』」『一橋ビジネスレビュー』69巻3号，2021年12月，148-163頁

藤原雅俊・青島矢一「日本の起業家群像：『産業変革の起業家たち』に基づく一次報告」『一橋ビジネスレビュー』69巻3号，2021年12月，8-25頁

1.3. その他

青島矢一「コロナ後の日本企業(上)：組織超え経営資源を結べ」『日本経済新聞』2021年7月21日，朝刊，経済教室欄，26面



市川 類

■ 履 歴

- 1988年 東京大学教養学部基礎科学科第二卒業
- 1990年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了
- 1990年 通商産業省入省
- 1997年 マサチューセッツ工科大学 技術・政策プログラム修士課程修了
- 2001年 経済産業省産業技術環境局 産業技術政策課課長補佐
- 2004年 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）企画調整課長ほか
- 2006年 資源エネルギー庁 新エネルギー等電気利用推進室長
- 2007年 日本貿易振興機構（JETRO）ニューヨークセンター情報技術部長
（情報処理推進機構（IPA）ニューヨーク事務所長）
- 2010年 経済産業省産業技術環境局 産業技術総合研究所室長
- 2011年 長岡技術科学大学 経営・情報系 教授
- 2013年 政策研究大学院大学 科学技術・学術政策プログラム博士課程修了
（博士（政策研究）取得）
- 2013年 内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室 内閣参事官
- 2017年 産業技術総合研究所 人工知能研究センター副研究センター長
人工知能研究戦略部長（2018年～）
臨海副都心センター所長（2019年～）
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

- 市川類「政府のデジタル化と生産性の向上」『一橋ビジネスレビュー』68巻4号, 2021年4月, 38-50頁
- 市川類「欧州 AI 動向からみる知的対話システムの倫理的リスク」『人工知能学会論文誌』37巻3号, 2022年5月
https://www.jstage.jst.go.jp/article/tjsai/37/3/37_37-3_IDS-A/_article/-char/ja/
- 市川類「産業革命としてのカーボンニュートラル革命」『一橋ビジネスレビュー』70巻1号, 2022年6月, 8-23頁

1.2. その他

市川類「連載 デジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎知識（1）～（6）」『Tech Note』イプロス社，2021年4月7日～7月2日

<https://www.ipros.jp/technote/basic-digital-transformation/>

市川類「DXの要諦は人材とデータ共有：デジタル人材の育成・確保と社会での共有で社会をより良く変革」『インフォコム』（㈱情報通信総合研究所（編）），Vol. 40，2021年9月，3-6頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

市川類「社会規範の差異が人工知能（AI）の規制・イノベーションに与える影響：欧州 AI 動向から見る知的対話システムの倫理的リスクに係る地域的差異」IIR ワーキングペーパー WP#21-03，2021年9月

市川類「カーボンニュートラル実現に向けたイノベーションの可能性：エネルギーシステム変革の歴史・構造を踏まえたグリーンイノベーション政策の方向」IIR ワーキングペーパー WP#21-04，2021年11月

市川類「サステナビリティ経営（SX）とその構造に係る考察：イノベーションの役割とステークホルダー資本主義の未来」IIR ワーキングペーパー WP#22-02，2022年5月

市川類「気候変動問題対応に係るサステナビリティ経営の産業別動向分析」IIR ワーキングペーパー WP#22-03，2022年5月

3. コンファレンス，学会発表

市川類「国立研究所に求められる研究 DX の方向」研究・イノベーション学会 第36回年次学術大会，2021年10月30日，オンライン



イバ パドロン=エルナンデス

■ 履歴

- 2010年 ヨーテボリ大学商・経済・法学部 国際ビジネス専攻 卒業 (B. Sc. 取得)
- 2011年 日欧産業協力センター研修員 (～2011年9月)
- 2012年 ヨーテボリ大学大学院経営管理研究科 国際ビジネス・貿易専攻 卒業 (M. Sc. 取得)
- 2017年～ スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 連携研究員
- 2018年 日本学術振興会 外国人特別研究員 (欧米短期) (～2019年1月)
- 2018年～ スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 日本事務所所長
- 2019年 スtockホルム商科大学大学院マーケティング・戦略研究科 Ph. D. (国際ビジネス)
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター 専任講師

■ 研究業績

1. コンファレンス, 学会発表

- Padrón-Hernández, Ivar, “Japanese Business School Rankings: Rivalry or a Case of Apples and Oranges?,” The 7th Annual Conference on Global Higher Education, hosted by Lakeland University Japan, June 5, 2021, online, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar and Masahiro Kotosaka, “Robust Disruptors and Incumbent Capabilities in the Japanese Taxi Industry,” Annual Meeting of the Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE), July 3, 2021, online, refereed
- Walravens, Tine and Ivar Padrón-Hernández, “The EU-Japan Economic Partnership Agreement in Japanese Print Media: A ‘Cars-for-Cheese-Deal’ or ‘the Black Ships of European Cheese’?,” Scandinavia-Japan Sasakawa Foundation Conference (SJSF), Copenhagen Business School, Copenhagen, Denmark, March 24, 2022, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar, “Disaster Reactions of Self-initiated and Organizational Expatriates,” 2nd International Conference on Self-Initiated Expatriation, hosted by Global Mobility of Employees (GLOMO), April 12, 2022, online, refereed
- Walravens, Tine and Ivar Padrón-Hernández, “The EU-Japan Economic Partnership Agreement in Japanese Print Media: A ‘Cars-for-Cheese-Deal’ or ‘the Black Ships of European Cheese’?,” Conference of the Nordic Association for the Study of Contemporary Japanese Society (NAJS), May 12, 2022, University of Oslo, Oslo, Norway, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar, “When Murder King Sells Vegan Burgers: Institutional Maintenance and Change in Fast Food,” Annual Meeting of the Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE), July 11, 2022, the University of Amsterdam, Amsterdam, the Netherlands, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar and Tine Walravens, “The EU-Japan Economic Partnership Agreement in Japanese Print Media: A ‘Cars-for-Cheese-Deal’ or ‘the Black Ships of European Cheese’?,” Annual Meeting of the Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE), July 11, 2022, the University of Amsterdam, Amsterdam, the Netherlands, refereed



江藤 学

■ 履歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在パリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士号（工学） 東北大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2011年3月）
- 2011年 日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長（～2013年7月）
- 2013年 一橋大学イノベーション研究センター特任教授
- 2016年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

江藤学『標準化ビジネス戦略大全』日本経済新聞出版，2021年7月，448頁

1.2. 論文，本の1章

小泉秀人・門脇諒・寺本有輝・原泰史・青島矢一・江藤学「外部資金の増加は大学の論文生産性を下げるのか：国立大学の部局レベルのデータからのエビデンス」『一橋ビジネスレビュー』69巻2号，2021年9月，76-91頁

1.3. その他

江藤学「国際標準化戦略の課題（下）：日本、欧州に学び欧州と組め」『日本経済新聞』2022年3月11日，朝刊，経済教室欄，30面掲載

江藤学「『はかる』ことを価値にするために」『はかる』（（一社）日本計量機器工業連合会（編）），No. 145，2022年3月，2-3頁

江藤学「日本企業が品質で戦うための3つの武器を提唱 標準化を活用して自らの品質を差別化領域にすべし」『アイソス』（システム規格社（編）），292号，2022年2月，6-11頁



大山 睦

■ 履歴

- 1997年 横浜市立大学商学部卒業
- 1999年 慶應義塾大学 修士（経済学）
- 2002年 シカゴ大学 修士（経済学）
- 2008年 ニューヨーク州立大学バッファロー校 Ph.D.（経済学）
- 2008年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 IGB ポスドク研究員
- 2009年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校マネジメント学部講師
- 2010年 北海道大学経済学研究科准教授
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年4月 メリーランド大学ロバート・スミス・ビジネススクール 客員研究員
（～2018年3月）
- 2022年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

大山睦・北川諒・堀展子「データやAIの利用は生産性とイノベーションに結びつくのか」
『一橋ビジネスレビュー』68巻4号, 2021年4月, 24-37頁

Ding, Waverly W., Atsushi Ohyama and Rajshree Agarwal, “Trends in Gender Pay Gaps of Scientists and Engineers in Academia and Industry,” *Nature Biotechnology*, Vol. 39, August 2021, pp. 1019-1024, refereed

Kambayashi, Ryo, Atsushi Ohyama and Nobuko Hori, “Management Practices and Productivity in Japan: Evidence from Six Industries in JP MOPS,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 61, September 2021, Article 101152, refereed

Braguinsky, Serguey, Atsushi Ohyama, Tetsuji Okazaki and Chad Syverson, “Product Innovation, Product Diversification and Firm Growth: Evidence from Japan's Early Industrialization,” *American Economic Review*, Vol. 111, No. 12, December 2021, pp. 3795-3826, refereed

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

Kambayashi, Ryo, Atsushi Ohyama and Nobuko Hori, “Management Practices in Japan: Survey Evidence from Six Industries in JP MOPS,” New ESRI Working Paper, No. 57, Economic and Social Research Institute, Cabinet Office, April 2021

Imani, Yusuke and Atsushi Ohyama, “The Roles of Structured Management in the Formation of Transactional Relationships,” TDB-CAREE Discussion Paper Series, No. E-2021-07, February 2022



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ，ペンシルベニア大学ウォートンスクール，2007年12月まで）
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

軽部大・古瀬公博・内田大輔・岩崎繁・石川昌弘・井上隆博（著）『商業706 ビジネス・マネジメント』実教出版，2022年1月，182頁

1.2. 論文，本の1章

軽部大「連載 企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（3）：ビジネスから共生社会を考える」『一橋ビジネスレビュー』68巻4号，2021年4月，142-151頁

軽部大「連載 企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（4）：いかに社会課題を市場課題へ転換するか」『一橋ビジネスレビュー』69巻2号，2021年9月，100-109頁

Nakano, Tsutomu, Masaru Karube, Yoshimichi Sato and Naoki Wakabayashi, “Economic Sociology in Japan,” *economic sociology. perspectives and conversations*, Vol. 23, No. 1, November 2021, pp. 11-18

軽部大・橘樹・米倉誠一郎「外国人起業家から見た創業環境としての日本」『一橋ビジネスレビュー』69巻4号，2022年3月，32-47頁

橘樹・内田大輔・軽部大「ビジネスケース：日本環境設計 服から服へ、資源が循環する持続可能なエコシステムの創造」『一橋ビジネスレビュー』70巻1号，2022年6月，126-138頁

内田大輔・芦澤美智子・軽部大「アクセラレーターによるスタートアップの育成：日本のアクセラレータープログラムに関する実証分析」『日本経営学会誌』第50号，近刊，58-71頁，査読有り

2. コンファレンス, 学会発表

Yu, Lei, Masaru Karube and Daisuke Uchida, “Do IPO Firms Keep Their Promises? Intended Use of Proceeds, Post-IPO Innovation Activity, and the Moderating Effect of Government Subsidies,” 18th Conference of the International Joseph A. Schumpeter Society, Virtual on July 8, 2021, refereed

Karube, Masaru, “Resource Allocation and Post-IPO R&D Activities: The Case of ChiNext Market,” 管理学 workshop, 北京大学国家发展研究院主催, 2021年12月17日, Zoom, 招待有り



カン ビョンウ

■ 履歴

- 2006年 東北大学工学部卒業
- 2008年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 2008年 LG Electronics 研究員（～2011年）
- 2014年 東京大学大学院 Ph.D.（技術経営戦略学）
- 2014年 アジア経済研究所研究員（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2019年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Kang, Byeongwoo and Kaoru Nabeshima, “National Origin Diversity and Innovation Performance: The Case of Japan,” *Scientometrics*, Vol. 126, No. 6, June 2021, pp. 5333-5351, refereed

Kang, Byeongwoo, “Impact of Academic Patenting on Scientific Publication Quality at the Project Level,” *Asian Journal of Technology Innovation*, Vol. 29, No. 2, August 2021, pp. 258-282, refereed

Matsumoto, Kuniko, Sotaro Shibayama, Byeongwoo Kang and Masatsura Igami, “Introducing a Novelty Indicator for Scientific Research: Validating the Knowledge-based Combinatorial Approach,” *Scientometrics*, Vol. 126, No. 8, August 2021, pp. 6891-6915, refereed

Byeongwoo Kang, “Innovation Processes in Public Research Institutes: AIST, Fraunhofer and ITRI Case Studies,” *Science, Technology and Society*, Vol. 26, No. 3, November 2021, pp. 433-458, refereed



小泉 秀人

■ 履歴

- 2011年 アメリカ創価大学教養学部卒業
- 2012年 エール大学経済学部修士課程修了 修士（国際開発経済学）
- 2012年 イノベーション・フォー・パバティアクション 研究員（～2013年）
- 2013年 世界銀行短期コンサルタント（～2014年）
- 2020年 ペンシルベニア大学ウォートン校応用学部博士後期課程修了
Ph.D.（応用経済学）
- 2020年 一橋大学イノベーション研究センター特任助教
- 2021年～ 一橋大学イノベーション研究センター特任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

小泉秀人・門脇諒・寺本有輝・原泰史・青島矢一・江藤学「外部資金の増加は大学の論文生産性を下げるのか：国立大学の部局レベルのデータからのエビデンス」『一橋ビジネスレビュー』69巻2号，2021年9月，76-91頁

2. コンファレンス, 学会発表

小泉秀人「投資促進税制の企業取引ネットワークを通じた波及効果の実証研究」TDB-CAREE 2021年度オンラインシンポジウム「企業マイクロデータを用いた経済・企業分析の最前線」2022年3月7日，オンライン，招待



中島 賢太郎

■ 履歴

- 2003年 東京大学経済学部卒業
- 2008年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）
- 2008年 東北大学大学院経済学研究科
地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授
- 2010年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授
- 2011年 東北大学大学院経済学研究科准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

中島賢太郎「ソーティングと地域間賃金格差」『住宅土地経済』（日本住宅総合センター（編）），
No. 123, 2022年1月，18-26頁

1.2. その他

宮内悠平・中島賢太郎「経済学者が読み解く 現代社会のリアル（第133回）：ポストコロナ時代の都市『通勤不要』でも根強い魅力」『週刊東洋経済』，2021年10月2日号，
96-97頁

中島賢太郎「都市の高密度は知的生産活動の源泉である」『Mezzanine』（トゥーヴァージンズ（編）），Volume 5, 2021年10月27日，26-29頁

中島賢太郎「特許データで明らかにする戦前期日本のイノベーション」『経済セミナー』
日本評論社，724号，2022年2月，46-50頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

Nakajima, Kentaro and Keisuke Takano, “Estimating the Impact of Land Use Regulation on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka,” RIETI Discussion Paper Series, 21-E-88, October 2021

Kiyota, Kozo, Kentaro Nakajima and Miho Takizawa, “Local Labor Market Effects of Chinese Imports and Offshoring: Evidence from Matched-Foreign Affiliate-Domestic Parent-Domestic Plant Data in Japan,” RIETI Discussion Paper Series, 22-E-13, March 2022

Go, Eugenia, Kentaro Nakajima, Yasuyuki Sawada and Kiyoshi Taniguchi, “On the Use of Satellite-Based Vehicle Flows Data to Assess Local Economic Activity: The Case of Philippine Cities,” ADB Economics Working Paper Series, No. 652, March 2022

Inoue, Hiroyasu, Kentaro Nakajima, Tetsuji Okazaki and Yukiko Umeno Saito, “The Role of Face-to-face Contact in Innovation: The Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” RIETI Discussion Paper Series, 22-E-026, March 2022

Miyauchi, Yuhei, Kentaro Nakajima and Stephen J. Redding, “The Economics of Spatial Mobility: Theory and Evidence Using Smartphone Data,” NBER working paper, No. 28497, Revised in April 2022

3. コンファレンス, 学会発表

Nakajima, Kentaro and Keisuke Takano, “Estimating the Impact of Land Use Regulation on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka,” 10th European Meeting of the Urban Economics Association, April 29, 2021, online

Nakajima, Kentaro and Keisuke Takano, “Estimating the Impact of Land Use Regulation on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka,” 15th North American Meeting of the Urban Economics Association, October 14, 2021, online, refereed

Nakajima, Kentaro, “On the Use of Satellite-Based Vehicle Flows Data to Assess Local Economic Activity: The Case of Philippine Cities,” 35th Annual Meeting of the Applied Regional Science Conference, November 20-21, 2021, online, refereed

Nakajima, Kentaro, “On the Use of Satellite-Based Vehicle Flows Data to Assess Local Economic Activity: The Case of Philippine Cities,” 2021 Asia Impact Evaluation Conference, December 10, 2021, online, refereed

4. 受賞

AREUEA National Conference Best Paper Award (アメリカ不動産 / 都市経済学会2021年大会における最優秀論文賞)

(受賞者: Miyauchi, Yuhei, Kentaro Nakajima and Stephen J. Redding, 研究成果: “Consumption Access and the Spatial Concentration of Economic Activity: Evidence from Smartphone Data”), 2021年6月

Homer Hoyt Institute Best Paper Award (アメリカ不動産 / 都市経済学会、アジア不動産学会、世界華人不動産学会の2021年合同国際大会における最優秀論文賞)

(受賞者: Yamasaki, Junichi, Kentaro Nakajima and Kensuke Teshima, 研究成果: “From Samurai to Skyscrapers: How Historical Lot Fragmentation Shapes Tokyo,” TDB-CAREE Discussion Paper Series No. E-2020-02, March 2021), 2021年7月



吉岡（小林）徹

■ 履歴

- 2005年 大阪大学法学部法学科卒業
- 2007年 大阪大学大学院法学研究科 法学・政治学専攻 博士前期課程修了
修士（法学・政治学）
- 2007年 株式会社三菱総合研究所研究員（～2012年）
- 2009年 東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員（非常勤，～2012年）
- 2013年 東京大学政策ビジョン研究センター研究補佐員（非常勤，～2014年）
- 2014年 日本学術振興会特別研究員（DC2）
- 2015年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了
博士（工学）
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2016年）
- 2015年 東京大学公共政策大学院特任講師（非常勤，～2016年）
- 2016年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 特任助教（～2019年）
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2019年）
- 2019年～ 一橋大学イノベーション研究センター専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文，本の1章

- 吉岡（小林）徹「連載：イノベーションマネジメントの定石（2）：着想を促す『つながり』の科学」『一橋ビジネスレビュー』69巻1号，2021年6月，108-113頁
- 吉岡（小林）徹「連載：イノベーションマネジメントの定石（3）：イノベーションを実現する『つながり方』の力」『一橋ビジネスレビュー』69巻2号，2021年9月，110-116頁
- 吉岡（小林）徹「イノベーション研究における定量分析のデータ源の新潮流」『組織科学』55巻1号，2021年9月，31-40頁
- 渡部俊也・吉岡（小林）徹・平井祐理・胡韋「知的財産制度はどのように利用されているのか：いくつかの知的財産に関する実証研究とその含意」『知財のフロンティア2：学際的研究の現在と未来』勁草書房，2021年10月，123-144頁
- 吉岡（小林）徹「連載：イノベーションマネジメントの定石（4）：技術獲得目的のM&Aの定石」『一橋ビジネスレビュー』69巻3号，2021年12月，122-128頁
- 吉岡（小林）徹「連載：イノベーションマネジメントの定石（5）：イノベーション実現への反対のマネジメント」『一橋ビジネスレビュー』69巻4号，2022年3月，90-95頁
- Yoshioka-Kobayashi, Tohru and Makiko Takahashi, “Determinants of Contract Renewals in University–Industry Contract Research: Going My Way, or Good Sam?,” in Azagra-Caro, Joaquín M., Pablo D'Este and David Barberá-Tomás, eds., *University-Industry Knowledge Interactions* (International Studies in Entrepreneurship Volume 52), Springer, March 2022, Chap. 6, pp. 89-110, refereed

吉岡（小林）徹「連載：イノベーションマネジメントの定石（6）：イノベーションの普及のための定石」『一橋ビジネスレビュー』70巻1号，2022年6月，96-103頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー，ケーススタディ

渡部俊也・吉岡（小林）徹「安全保障の観点における特許登録延期制度および補償金に関して：所謂『秘密特許制度』に関する論点」東京大学未来ビジョン研究センター安全保障研究ユニット2021年度ワーキングペーパー・シリーズ，No. 5，2021年7月

Higham, Kyle, and Tohru Yoshioka-Kobayashi, “Patent Citation Generation at the Triadic Offices: Mechanisms and Implications for Analysis,” SSRN, No. 4022851, Feb 2022

吉岡（小林）徹・柴山創太郎・川村真理「社会人経験のある博士課程学生のアウトカム：キャリア選択、知識生産に差はあるのか」文部科学省科学技術・学術政策研究所 DISCUSSION PAPER, No. 207, 2022年3月

吉岡（小林）徹「米中日の科学知識生産と国際共同研究：新興技術分野2分野の現状」東京大学未来ビジョン研究センター安全保障研究ユニット 2021 年度ワーキングペーパー・シリーズ，No. 7，2022年3月

3. コンファレンス，学会発表

Sumikura, Koichi, Masatsura Igami, Makiko Takahashi, Tohru Yoshioka-Kobayashi, Kazuma Edamura and Keisuke Isogai, “Quantitative Analysis on Research Administration and University-Industry Cooperation,” The 2021 meeting of the International Network of Research Management Societies, May 25-27, 2021, online, invited

吉岡（小林）徹・福井啓介「組織と個人の間の新技術に 対する事業機会認識の差異」2021 年度組織学会研究発表大会，2021年6月6日，オンライン

吉岡（小林）徹「研究開発における組織内・組織間関係一特許データによる貢献と限界、留意点」2022年度組織学会研究発表大会，2021年10月31日，オンライン，招待有り

Kanetaka, Maki, Koichi Sumikura, Tohru Yoshioka-Kobayashi, “Star Scientists and University-based Ecosystem,” The Australia-Japan Forum on the Innovation-hub Ecosystem, November 30, 2021, online, 招待有り

吉岡（小林）徹「競合分析の手段としての意匠データの利用」日本マーケティング学会 第9回 マーケティング・ツールとしての知的財産研究報告会，2022年3月19日，オンライン，招待有り

4. 受賞

吉田秀雄記念事業財団 助成研究吉田秀雄賞「準吉田秀雄賞」

（受賞者：井上由里子・佐々木通孝・五所万実・吉岡（小林）徹，研究成果「商標訴訟の証拠としての消費者アンケートの設計手法の研究：マーケティング研究と法学の融合によるアプローチ」，2021年11月）

2. 兼任研究員——2021年度

■ 岡室 博之

一橋大学大学院経済学研究科 教授

■ 仮屋 広郷

一橋大学大学院法学研究科 教授

■ 神林 龍

一橋大学経済研究所 教授

■ 楠木 建

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

■ 西野 史子

一橋大学大学院社会学研究科 教授

■ 福川 裕徳

一橋大学大学院経営管理研究科 教授



III. 教育活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2021年度

IIR 教員による講義の概要は以下の通りである。

■ 大学院経営管理研究科の講義

1. 研究者養成コース

「イノベーション経営特論」 秋冬学期 2 単位 軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「イノベーション経済特論」 春夏学期 2 単位 中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介および輪読によって、イノベーション研究についての最近の話題について理解する。

「知的財産特論」 春夏学期 2 単位 江藤学、市川類

特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権等の知的財産権法や不正競争防止法の制度や運用、さらに技術に関する国際標準化や認証（適合性評価）の仕組みや実態、標準必須特許について基礎的な素養を得る。経済産業省行政官の業務経験を生かした講義に加えて、特許データベースの活用や、知的財産に関する最新の学術研究についても紹介する。

「先端科学技術とイノベーション」 秋冬学期 2 単位 青島矢一、大山睦

経済社会への影響を考慮せずに現実性のある研究を行うことは難しくなっている。政策立案に関係する研究であれば、それはなおさらのことである。社会科学者であっても現実社会に有益な知見をもたらす研究を行うためには、自然科学の発展を深く理解することが必要である。そこで本授業では、社会に大きな影響を与えてきた、また、与えつつある先端科学技術の重要領域を4つから5つとりあげて、最先端のイノベーションの事例を紹介するとともに、その社会科学的な意義を議論する。

「イノベーションと政策・制度」 秋冬学期 2 単位 江藤学、市川類

政策や制度がイノベーションに与える影響を知り、イノベーションを起こすツールとして政策や制度を使いこなしたり、新しい政策や制度を立案したりする能力を獲得し、イノベーション研究者・実務者としての基礎的素養とする。政策や制度がどのように作成され、施行され、社会を変革しているかを予測するための基礎的知識と思考能力を獲得する。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期 2 単位 青島矢一、江藤学

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義。イノベーション研究の全体像及び各論の基礎的な知識を身に着ける。

「イノベーション研究方法論」春夏学期 2 単位 青島矢一、江藤学、大山睦

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義。イノベーションの研究方法論についての基礎的な概念、視点、理論などを身に着けることを目的とする。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」春夏学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「技術戦略特論」秋冬学期 2 単位 青島矢一、吉岡（小林）徹

技術的なイノベーションを中心とする、イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、イノベーションの特質、イノベーションのパターン、イノベーションの創出、そして、イノベーションと競争との関係性を主たるテーマとする。イノベーションとはどのような特質をもった現象なのか、どのような発生、変化のパターンをたどるのか、企業の競争や産業の構造にどのような影響をおよぼすのか、などの問題を検討する。これらの問題を扱っている主として海外の文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期 2 単位 青島矢一、江藤学

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期 2 単位 青島矢一、江藤学

「研究領域演習（イノベーション）」通年 6 単位 中島賢太郎

「演習／演習 (Ph.D)」通年 6 単位

青島矢一、市川類、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副演習／副演習 (Ph.D)」通年 4 単位

青島矢一、市川類、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹

2. MBA コース

「経営組織」経営管理プログラム，秋冬学期 2 単位

「経営組織」経営分析プログラム，秋冬学期 2 単位

青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことであり、そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ビジネス・エコノミクス」経営分析プログラム，春夏学期 2 単位 大山睦

企業行動、産業組織論、組織の経済学に関する基礎的な知識を学ぶ。現実問題を出発点に置き、経済学的に問題を定義して答えを導き出す。また、統計ソフト R の使い方を学び、理論的な考察から得られる仮説をどのようにデータで検証できるかを学ぶ。

「ワークショップ：経営 A」経営分析プログラム，通年 6 単位

軽部大

「ワークショップ A」経営管理プログラム，通年 6 単位

軽部大

3. HSEP（一橋シニアエグゼクティブ・プログラム）

第21クール

青島矢一：

セッション2：「戦略思考レクチャー」2021年10月29日

セッション5：「私の経営者研究④」2022年3月4日

第22クール

青島矢一：

セッション3：「戦略失敗についての自社ケース」2021年12月9日

「戦略的失敗ケースの振り返り」2021年12月10日

セッション5：「私の経営者研究④」2022年3月9日

4. EPSON（エプソン経営リーダー育成プログラム）

第3クール

青島矢一：

「技術戦略・イノベーション論」2021年10月22日・23日

5. HFLP（一橋大学財務リーダーシップ・プログラム）

青島矢一：

B コース 第7セッション：「経営戦略論」2022年1月21日

■ 商学部の講義

「イノベーション・マネジメント」春学期2単位 吉岡（小林）徹

イノベーションは個人、組織、社会が絡み合う複雑な現象であり、未解明の法則も多々ある。そこで本授業では、イノベーションという現象を複数の焦点（個人、チーム、組織、地域、国）と学術的視点（組織論、マーケティング論、戦略論、社会学、経済学）を切り替えて多角的に見ていくこと、そして、障壁の原因について自らで仮説を作り検証をしていくことを重視する。これらの多角的な見方と仮説検証の力を身に付け、産業界や社会活動、行政、学術それぞれの世界で応用可能な能力を得ることを目標とする。

「イノベーション経済特論」春夏学期2単位 中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介および輪読によって、イノベーション研究についての最近の話題について理解する。

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅰ」秋学期2単位 大山睦

ミクロ経済学の理論的枠組みを用いて、消費者や企業の様々な行動を理論的に考察する。企業行動に関する理論を主に学び、現実の経済問題に経済理論を応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、価格戦略、製品差別化戦略、情報の非対称性、イノベーションである。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅱ」冬学期2単位 中島賢太郎

統計的データ分析の理論、方法論の基礎についての講義および統計パッケージソフトによる実習を通じて、受講者が自分でビジネスエコノミクスに関する統計的データ分析が行えるようになることを目的とする。

「経済・経営指標入門」集中講義（冬1）2単位 大山睦（共同講義）

会計・財務・経済ならびに経営事象に関する定量的指標を取り上げて、その基本的な考え方や見方を学び、より発展的な内容を学習していく際の基盤を形成することを主たる目的とする。

「デザイン思考とデザイン経営」春夏学期 2 単位 吉岡（小林）徹

「デザイン思考」と「デザイン経営」の「なぜ」を理解することに主眼を置き、その実践例や実践手法について考えていくための理論的な手がかりと、考える素材を提供する。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」春夏学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「Interactive Course on Business Basics (Management)」

春学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

This course has two main aims: (1) to build a fundamental understanding of business and management in English and (2) to apply and expand that understanding through discussions about real-world examples. Together, the two aims allow students to gain insights not only through listening and reading, but also by actively testing and challenging different perspectives.

「Advanced Course in Management」

春学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing the different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅰ」春夏学期 2 単位 大山睦、吉岡（小林）徹

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅱ」秋冬学期 2 単位 吉岡（小林）徹

「導入ゼミナールⅠ」春夏学期 2 単位 江藤学、大山睦

「演習」通年 4 単位 青島矢一、大山睦、軽部大、中島賢太郎

2. イノベーションマネジメント・政策プログラム——2021年度

■ 概要

イノベーションマネジメント・政策プログラム (Innovation Management and Policy Program: IMPP) は、経営学や経済学を中心とする社会科学の知識を身につけながら、①イノベーションのマネジメント、または、イノベーションを促す政策形成や制度設計に関連するテーマで独自の研究論文を仕上げ、学術的なフロンティアを開拓するとともに、②民間組織におけるイノベーションのマネジメントや公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して適切かつ重要な影響力をもちうる研究人材を養成することを目的とした、博士レベルのサーティフィケートプログラムである。日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化もしくは向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行う、教育（教員からの学術的知識の習得）と研究（教員との研究の実施）が一体化したプログラムとなっている。

本プログラムは、文部科学省科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点事業（領域開拓拠点）による補助を受け運営している。

■ 受講者

本プログラムには、一橋大学大学院博士課程に所属する学生その他、他大学の博士課程の学生、社会人を含む修士課程修了者（もしくは、修士課程修了に相当する者）などが参加可能であり、カリキュラムは、水曜日の夜開講の必修科目と土曜日開講のイノベーションリサーチセミナー、平日開講の選択必修科目、その他特別講義などで構成されている。

本プログラムを修了するには、「イノベーションリサーチセミナー」、「必修科目」、「選択必修科目」の合計14単位の受講に加えて、論文2本の提出が必要となる。

■ 実績

2021年度在学生 31名

	2020 年度入学	2021 年度入学
社会人学生	6 名	5 名
一橋大学博士後期課程学生	4 名（4 名）	4 名（4 名）
その他（再入学者含む）	0 名	0 名

（）内は経営管理研究科の学生

■ 2021年度 of 主な行事

6 月 5 日から 6 月 6 日	【学会発表（学生 2 名）】 2021 年度組織学会研究発表大会 会場：ZOOM アプリによるオンライン
7 月 29 日から 8 月 4 日	【学会発表（学生 1 名）】 The AOM 2021 Conference 会場：ZOOM アプリによるオンライン
8 月 23 日から 8 月 24 日	IIR サマースクール 2021 会場：ZOOM アプリによるオンライン
9 月 3 日から 9 月 5 日	SciREX サマーキャンプ 2021 会場：ZOOM アプリによるオンライン
9 月 18 日から 9 月 21 日	【学会発表（学生 1 名）】 Virtual Toronto SMS 41st Annual Conference 会場：ZOOM アプリによるオンライン

10月30日から 10月31日	【学会発表（教員4名、学生4名）】 研究・イノベーション学会 第36回年次学術大会 会場：ZOOM アプリによるオンライン
10月30日から 10月31日	【学会発表（教員2名、学生2名）】 2022年度組織学会年次大会 会場：ZOOM アプリによるオンライン

■ 講義

必修科目

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学／大山睦
科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義を行う。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学
科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義を行う。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期2単位 青島矢一／大山睦
社会科学者と最先端の技術者・研究者の組み合わせによるオムニバス形式の講義を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

選択必修科目 ※経営管理研究科（研究者養成コース）と共通（Ⅲ-1. 参照）

「知的財産特論」春夏学期2単位 江藤学／市川類
「イノベーション経済特論」秋冬学期2単位 中島賢太郎
「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大
「イノベーションと政策・制度」秋冬学期2単位 江藤学／市川類

IV. 研究成果および刊行物

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 一橋ビジネスレビュー——2021年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』（東洋経済新報社発行）としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1回程度、「一橋ビジネスレビュー・フォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。

■ 編集顧問

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

柳井正（株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

山海嘉之（筑波大学教授／サイバニクス研究センター研究統括／サイバーダイナミクス株式会社代表取締役社長／CEO）

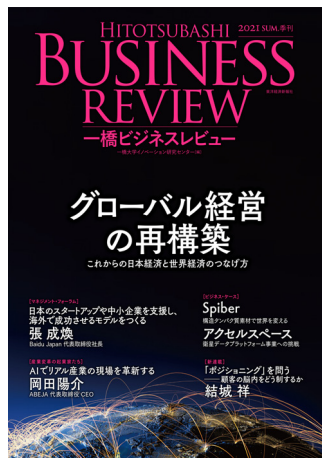
■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長） 青島矢一 市川類 江藤学 大山睦 加賀谷哲之 加藤俊彦
軽部大 カン・ビョンウ 楠木建 小泉秀人 島貫智行 中島賢太郎 中野誠 沼上幹
野間幹晴 パドロニ＝エルナンデス・イバ 藤川佳則 藤原雅俊 松井剛 吉岡（小林）
徹 鷺田祐一

学外

浅川和宏（慶應義塾大学） 浅羽 茂（早稲田大学） 生稲史彦（中央大学） 糸久正人（法政大学） 金井壽宏（立命館大学） 栗木 契（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学）
清水勝彦（慶應義塾大学） 清水 洋（早稲田大学） 鈴木竜太（神戸大学） 武石 彰（学習院大学） 長岡貞男（東京経済大学） 楡井 誠（東京大学） 延岡健太郎（大阪大学）
藤本隆宏（早稲田大学） 守島基博（学習院大学） 米山茂美（学習院大学）
M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国） M. Kenney（カリフォルニア大学デービス校 米国） 李 亨五（淑明女子大学校 韓国） 徐 正解（慶北大学校 韓国）



■『一橋ビジネスレビュー』 第69巻1号 2021年7月

○特集「グローバル経営の再構築—これからの日本経済と世界経済のつなげ方」

現在、日本経済は世界経済とのつなげ方を問われている。日本国内では労働力不足が深刻で、外国人材との融合は1つのカギである。また、2003年の観光立国宣言以降、日本政府は観光政策を次々と打ち出し、新型コロナウイルス感染拡大までは日本経済を牽引する1つの産業になるはずであった。一方、これまで大きく拡大してきたグローバル化の流れは重要な転換期に入っている。主要国で台頭した大衆迎合政権の内向的姿勢に、コロナ禍が拍車をかけたことは言うまでもない。本特集では、こうした現状をさまざまな観点から見つめ直し、これからの日本経済と世界経済のつなげ方について議論する。

○特集論文

浅川和宏／ハリー・コリーン「グローバルでオープンな R&D 戦略への変革：武田薬品工業の事例から」

柴田友厚「グローバルな製品開発戦略の進化：ダイキン工業 成長の軌跡」

金熙珍／板垣博／関口倫紀「日本企業の海外子会社における言語選択」

山尾佐智子「グローバル人材とそのマネジメント：国際人的資源管理研究から得られる知見」

石田修「生産システムのグローバリゼーション：物理空間とデジタル空間の視点から」

ハン・H・スプリング「自社のサービス部門に『3次効果』への備えはあるか」

イ・ヒジン「米中対立と技術標準の地政学：岐路に立つグローバル化とテクノナショナリズム」

○私のこの一冊

永山晋「人間の根本原理を知る：乾敏郎／阪口豊『脳の大統一理論 自由エネルギー原理とはなにか』」

○連載

岡田陽介「産業変革の起業家たち (7)：AI でリアル産業の現場を革新する」

インタビューア 青島矢一／藤原雅俊

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石 (2)：着想を促す『つながり』の科学」

結城祥「『ポジショニング』を問う：顧客の脳内をどう制するか (1)：今、なぜポジショニングを問うのか」

○ビジネス・ケース

青島矢一／藤原雅俊「Spiber：構造タンパク質素材で世界を変える」

菅原岳人／大藺恵美「アクセルスペース：衛星データプラットフォーム事業への挑戦」

○マネジメント・フォーラム インタビューア 米倉誠一郎／カン・ビョンウ

張成煥（バイドゥ株式会社 代表取締役社長）

「日本のスタートアップや中小企業を支援し、海外で成功させるモデルをつくる」



■『一橋ビジネスレビュー』 第69巻2号 2021年9月

○特集「研究力の危機を乗り越える—その本質的な原因と未来志向の処方箋」

日本の研究力は、相対的に見て現在危機的な状況にある。中国が躍進し、アメリカ、イギリス、ドイツが順調にインパクトのある研究成果を多数生み出すなか、日本による成果は徐々に減りつつある。なかでも、大学セクターの科学技術研究の国際的な地位の低下が目立っている。この危機をめぐって、研究費の競争的資金へのシフト、若手研究者の雇用の不安定化、そして、研究活動で大きな役割を担ってきた国立大学の法人化と基盤的な運営資金の減少に原因を求める声は少なくない。本特集では、政策、ビジネス、そして学術的な観点から、大学セクターに求められるマネジメントを考える。

○特集論文

小林信一／福本江利子「国立大学法人化とは何だったのか：科学研究の観点からの評価」

丸山宏「アカデミアと社会：二項対立を超えて」

中澤恵太「大学の研究力に関する課題と研究力強化の取り組み」

遠藤貴宏「フロントラインの疲弊が改善されないのはなぜか：研究大学の主体性に注目して」

サイモン・ケリッジ「リサーチ・マネジメント、リサーチ・アドミニストレーション：成長途上の専門職」

小泉秀人／門脇諒／寺本有輝／原泰史／青島矢一／江藤学「外部資金の増加は大学の論文生産性を下げるのか：国立大学の部局レベルのデータからのエビデンス」

○連載

高原幸一郎「産業変革の起業家たち（8）：モビリティを新たなインフラに：誰もが自由に移動できる社会をめざす」 インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

軽部大「企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（4）：いかに社会課題を市場課題へ転換するか」

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（3）：イノベーションを実現する『つながり方』の力」

結城祥「『ポジショニング』を問う：顧客の脳内をどう制するか（2）：顧客の脳内に侵入する4つの方法」

○私のこの一冊

岩尾俊兵「『闘争の人』と『和合の人』：山本周五郎『花も刀も』」

勝又壮太郎「『人は物のために死ぬるか』を本気で問う、もう1つの戦国時代：山田芳裕『へうげもの』」

○ビジネス・ケース

三浦友里恵／島貫智行「大丸松坂屋百貨店：経営統合における人事制度改革と人事部の役割」

延岡健太郎／青島矢一「麒麟ビール：クラフトビールのプラットフォーム『タップ・マルシェ』」

犬飼知徳／西村知晃／寺畑正英／上小城伸幸「JCOM：ミドル・アップ・ダウンによるRPAの導入プロセス」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 江藤学／吉岡（小林）徹

天野浩（名古屋大学未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センター長・教授）
「世界で負けない研究には、没頭できる環境が不可欠」



■『一橋ビジネスレビュー』 第69巻3号 2021年12月

○特集「スタートアップが変える未来—新たなイノベーションシステムの確立に向けて」

大企業中心の日本の産業システムは、社会に安定性をもたらす一方でイノベーションを生む活力をそぎつつある。今後、活力ある産業発展を実現するには、新興企業の成長が欠かせない。そのためには、技術、資金、信用、経営ノウハウなど、企業家に不足しがちな経営資源を、社会全体から供給、補完する必要がある。本特集では、それらの経営資源がどのようなルートでスタートアップ企業に供給されているのかを多面的に明らかにするとともに、そこに含まれる諸課題を抽出し、新旧企業を交えた産業発展のあり方を探る。

○特集論文

藤原雅俊／青島矢一「日本の起業家群像：『産業変革の起業家たち』に基づく一次報告」

畠山直子／黒沢洋一郎「既存企業の再生・再編：VC・PE ファンドの歴史に見る価値向上に向けた根幹の精神・ガバナンス」

忽那憲治「IP0 企業の地域分布とパフォーマンス：地方創生のためのファイナンスの課題」

各務茂夫「大学発ベンチャー：20年間の進展と今後の課題」

石井芳明「スタートアップ支援の現状と方向性」

岡本知久／青島矢一「コーポレート・ベンチャーキャピタルの戦略的活用：日米欧主要 CVC の分析」

米倉誠一郎／アニス・ウッザマン「多様性とスピードを加速する『CVC4.0』：VC as a Service が拓く未来」

○連載

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（4）：技術獲得目的の M&A の定石」

結城祥「『ポジショニング』を問う：顧客の脳内をどう制するか（3）：ポジショニングのポジショニング」

伊藤毅「産業変革の起業家たち（9）：日本の大学から世界に通用するスタートアップを生み出す」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○私のこの一冊

吉田満梨「消費者という『他者』との価値共創：清野とおる『その「おこだわり」、俺にもくれよ！！』」

○ビジネス・ケース

板橋洋平／北川実茶／笹森奎穂／志賀俊希／青島矢一

「スーパーホテル：持たざる経営を支える『自律型感動人間』」

佐々木将人／宇田川元一／黒澤壮史

「NEC：新事業開発を起点とした企業変革へのチャレンジ」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎／青島矢一

孫泰蔵（連続起業家／ベンチャー投資家）

「エバグリーンファンドでスタートアップを純粋に応援する」



■『一橋ビジネスレビュー』 第69巻4号 2022年3月

○特集「マイノリティーから考えるビジネス創造—多様性を社会の創造力に変える」

私たちがめざすべき社会とは、多様な人々が分け隔てられることなく、自らの特長を活かせる社会である。本特集では、ビジネス創造を通じたマイノリティーによる市場活動への参加に注目し、分け隔てなしに活動できることが、豊かで持続的な社会の実現に不可欠であることを検討する。インクルージョンやダイバーシティの問題は、人権や社会的福祉の問題であると同時に、ビジネスや市場を創造する上での問題でもある。マイノリティーが果たす役割を多面的に捉えることで、市場機会の発見・創造からビジネス創造に至る一連の過程を明らかにしたい。

○特集論文

鹿住倫世「『見えない』女性起業家に光を当てる：マイノリティーからの脱却と事業創造」

杉山文野「セクシュアルマイノリティーと日本社会」

軽部大／橘樹／米倉誠一郎「外国人起業家から見た創業環境としての日本」

星川安之「特定の人の『専用品』を、より多くの人が使える『共用品』へ」

中邑賢龍「ユニークな人の教育と新しいビジネス創造」

島田由香「マイノリティーからマジョリティーへ：個の直感・違和感・行動が組織を変える」

○連載

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（5）：イノベーション実現への反対のマネジメント」

武田和也「産業変革の起業家たち（10）：後発グルメサイトの戦い方『食体験で人生をハッピーに』」
インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○私のこの一冊

清水たくみ「『書くこと』を生業にすること：村上春樹『職業としての小説家』」

○ビジネス・ケース

柴田友厚／藤本雅彦「アイリスオーヤマ：『ユーザーイン』による需要創造の経営」

鈴木智子「カイハラ：Makuake プロジェクトを通じた B2C への挑戦」

松井剛「スークカンパニー：百貨店のなかに市場を創り劇場化する」

○第21回 ポーター賞 大藺恵美「ポーター賞受賞企業・事業に学ぶ」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎／軽部大

垣内俊哉（株式会社ミライロ 代表取締役社長）

「DX を活用し、障害を価値に変えた新しいビジネスを創造する」

2. ワーキングペーパー——2021年度

イノベーション研究センターでは、個人または共同研究の過程で明らかになった最新の成果をワーキングペーパーとしてタイムリーに発表している（[http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did\[\]=2&cid\[\]=6&cid\[\]=7&s=dd&ppc=20](http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did[]=2&cid[]=6&cid[]=7&s=dd&ppc=20)）。

- | | |
|----------|--|
| WP#21-03 | 市川類「社会規範の差異が人工知能（AI）の規制・イノベーションに与える影響～欧州 AI 動向から見る知的対話システムの倫理的リスクに係る地域的差異～」2021年9月 |
| WP#21-04 | 市川類「カーボンニュートラル実現に向けたイノベーションの可能性～エネルギーシステム変革の歴史・構造を踏まえたグリーンイノベーション政策の方向～」2021年11月 |
| WP#22-01 | 寺本有輝「システマティック・レビューによるトップ・マネジメント研究の再検討：相互作用と時間展開」2022年1月 |

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒186-8603
東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411 (代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research